

第 9 回（通算第 15 回）八大学工学部長会議 議事録

日 時 2019 年 4 月 19 日（金）10:00～12:00

場 所 KKR 東京 11F 朱鷺の間

出席者 (北大)瀬戸口剛工学部長、(東北大)長坂徹也工学部長、(東大)大久保達也工学部長、(東工大)岩附信行工学院院长、(名大)水谷法美工学部長、(京大)大嶋正裕工学部長、(阪大)田中敏宏工学部長、(阪大)狩野裕基礎工学部長、(九大)久枝良雄工学部長

出席依頼 岸本喜久雄・東工大名誉教授

陪席者 安藤晃・監事、大矢淳一・監事、三平満司・監事※、齊藤嘉信・監事※（※は 2019 年度八大学工学系連合会の監事に選任予定を示す。）

(東北大工学部) 齊藤嘉信事務部長[再掲]、佐藤政行総務課長、(東大工学系・情報理工学系事務部) 見供隆事務部長、平野裕士総務課長、鈴木俊祐総務チーム係長、(東工大大岡山第二事務区) 臼井秀明事務長、(名大工学部事務部) 市川真康事務部長、山田朋子総務課長、石原英紀総務課総務係長、(京大・桂地区(工学研究科)事務部) 塚上公昭事務部長、岡田幸美総務課長、幣真由美教務課長、簗谷文一総務課総務係長、(阪大工学部) 松本光弘事務部長、服部圭一総務課長、(九大工学部等事務部) 川崎輝之事務部長、田口晶子総務課長

事務局 石原直事務局長、安尾千恵子事務局員

注 記 工学部長会議の回数は、一般社団法人として第 9 回、連合会として通算第 15 回となる。

議 題

1. 報告事項

- (1) 前回議事録確認
- (2) 運営委員会活動報告
- (3) 工学系教育改革の取り組みについて
- (4) 工学教育研究に関する国際交流について

2. 協議事項

- (5) 博士フォーラムの実施報告と今年度の進め方について
- (6) 就職活動問題への取り組みと今後の進め方について
- (7) 産学連携による高度工学系人材の育成について
- (8) 八大学からの提言の進め方について

3. その他

- (9) 今後の予定について

配布資料一覧

- 資料1 第 8 回(通算第 14 回)八大学工学部長会議議事録(案)
- 資料2 平成 30 年度第 2 回運営委員会議事録(案)
- 資料3 産学連携強化による工学教育エコシステムの構築 (北大)
- 資料4 Asian Engineering Deans' Summit (AEDS2019)
- 資料5 UKJEEL 2019 (7th UK-Japan Engineering Education-League Workshop)
- 資料6 日豪フォーラム計画書 (案)
- 資料7 平成 30 年度博士フォーラム実施報告 (東大)

- 資料8 公開シンポジウムの開催とその後の動きについて
資料9 企業と連携した人材育成の今後の進め方について
資料10 産学連携による科学技術人材の育成について（岸本）
資料11 八大学からのこれまでの提言一覧
資料12 八大学工学系連合会の会長校・幹事校について（参考）
（限定配布）産学連協強化による工学系教育エコシステムの構築
https://park.saitama-u.ac.jp/~eduecosys_portal/
（回収資料）採用と大学教育の未来に関する産学協議会

議 事 要 旨

開会の辞

定款施行細則第4条の4に基づいて議長を務める名大・水谷工学部長より、第9回八大学工学部長会議の開会に当たって挨拶があった。

会議日程及び資料確認

事務局より会議日程の説明、及び配布資料の確認が行われた。

出席者紹介

水谷議長より出席者が紹介され、新任の北大・瀬戸口工学部長から挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 前回議事録（案）確認（資料1）

資料1により、昨年9月28日に大阪にて開催した第8回（通算第14回）八大学工学部長会議議事録（案）を確認の上、承認した。

(2) 運営委員会活動報告（資料2）

水谷議長から資料2に基づき、昨年11月30日に開催した平成30年度第2回運営委員会の議事の報告が行われ、本日のこれからの議論の参考にされたい旨、紹介があった。

(3) 工学系教育改革の取り組みについて（資料3）

北大・瀬戸口工学部長より、工学系教育改革の流れとして北大で平成30年度事業として実施した「産学連携強化による工学教育エコシステム構築事業」の実施報告があり、次のような議論があった。

- ・ 事業で指摘された「学修一環、修博一環」、「メジャー・マイナー」、「博士進学希望時期」などの改革課題は各大学の特性を勘案しながら今後も検討して行く。
- ・ 副専修ではレベルの維持や主専門をおろそかにならないことが重要で、数理サイエンス・データ科学、知財などの企業との連携教育などが候補になるだろう。
- ・ 本事業を実施した4大学（北大、埼玉大、名工大、金沢大）の比較はこれからの課題。

なお、本件は後の協議事項(7)でも関連する議論を行うこととした。

(4) 工学教育研究に関する国際交流について（資料4、資料5、資料6）

水谷議長から今年度は3件の工学教育研究に関する国際交流が計画されていて連合会はそれらに「協賛」あるいは「共催」することが紹介され、それぞれについて担当の大学より説明と参加

案内があった。

まず、資料 4 に基づいて、東工大・岩附工学院院长より、来る 5 月 29 日～31 日に台湾・国立台湾大学で開催する The 9th Asian Engineering Dean's Summit (AEDS2019)の説明と参加登録案内があった。

引き続き、資料 5 に基づいて、東工大・岩附工学院院长より、9 月 5 日～7 日にロンドン (Queen Mary University of London) で開催予定の第 7 回日英工学教育ワークショップのアナウンスがあり、各大学にはワークショップへの教員、博士課程学生派遣の検討依頼があった。

また、10 月 16 日～18 日に北大で開催を計画している「日豪フォーラム」について北大・瀬戸口工学部長から説明があった。日本工学アカデミーが実施してきた日豪若手研究者交流事業の参加者をメンバーとする第 3 回シンポジウムに八大学工学系連合会が連携・共催する形が計画されており、これから八大学として具体的な連携・協力を検討していくこととした。

2. 協議事項

(5) 博士フォーラムの実施報告と今後の進め方について (資料 7)

幹事校を務めた東大・大久保工学部長から資料 7 に基づき、昨年 10 月 12 日に東京大学本郷キャンパスで開催した「博士フォーラム」の実施報告があった。今回のフォーラムでは、博士/修士学生より「博士課程に進学した理由」や「博士課程に進学しない理由」などの話題提供があり、これに基づいて博士課程学生の経済的支援などの深刻な問題点が議論されたことが報告された。また、この博士課程学生の経済的支援の貧弱さの議論に関連して、その場で、「特別研究員の報酬受給制限の緩和 (平成 30 年 4 月 1 日付け施行) に関する通知」についての情報提供があり、これを各大学で周知に努めることとした。また、今年度の幹事校の名大・水谷工学部長から今年の博士フォーラムは 11 月 15 日に名大キャンパスでの実施を企画中なので、プログラム等に関してご意見があったらお寄せいただきたいとのアナウンスがあった。

(6) 就職活動問題への取り組みと今後の進め方について (資料 8)

事務局より資料 8 に沿って、昨年 12 月 18 日に開催した公開シンポジウムの開催報告、その後の新聞報道、経団連の「採用と大学教育の未来に関する産学協議会の設置・開催」情報などの説明があり、以下のような議論を行った。

- ・「ジョブ型採用」はこれからの採用の在り方議論で有効なキーワードだろう。
- ・方向性は基本的に括採用から通年採用へだが、これを実現して行くには多くの困難がある。実は既に通年採用は若年層の失業を増やすという議論さえあるので慎重な検討が必要だろう。
- ・全国全大学一斉の方向転換は極めて困難で、レイヤー分けなども考える必要があるだろう。

また、水谷議長より、今年もシンポジウム開催は必須との観点から公開シンポジウムを 11 月 27 日 (水) に東京神田・一橋講堂で開催する提案がありこれを承認した。また、今年度も運営委員会に就活対応分科会を設置し、分科会事業として本活動を継続・推進することとした。

(7) 産学連携による高度工学系人材の育成について (資料 9, 資料 10)

水谷議長より資料 9 を用いて、昨年度の「高度工学系人材育成に関する JRJA との連携事業」が (JRJA 解散により) 中断、関連する分科会の資料が宙に浮いているという状況説明があり、本件の今後の進め方を議論したいとの要請があった。また、本件に関連して、東工大・岸本名誉

教授より「産学連携による科学技術人材の育成について」と題して、「大学協議体」活動を中心に産学連携教育の推進動向の説明があった。これらの情報提供をもとに意見交換を行い、当面次の方向で進めることとした。

- ・ パートナが無くなってしまった連携事業の継続は難しい。作成したデータは当面保管しておくこととする。
- ・ 文科省の（「産学コラボレーション人材育成構築事業」を基にした）公募案件「大学教育再生戦略」については、連合会としての検討は行わず、個別大学の対応とする。
- ・ 文科省・経産省が連携して進める大学協議体（岸本議長）への八大学工学系連合会の参画を検討する。

(8) 八大学からの提言の進め方について（資料 11）

水谷議長より、資料 11 のこれまでの提言一覧を参考に今年度の提言テーマを提案要請があった。ここでのテーマ提案も含めて、運営委員会で今年度の提言の進め方を検討することとした。

3. その他

(9) 今後の予定について（資料 12）

今後の会議予定について資料 12 を参考に水谷議長から、今年秋の幹事校が京都大学、来年春の幹事校が東京大学であることが紹介された。

- ・ 次回の常設会議の幹事校である京大・大嶋工学部長から、2019 年(令和元年)秋の常設会議は 9 月 27 日（金）、京都ホテルオークラで開催するとのアナウンスがあった。
- ・ 次々回の常設会議の幹事校である東大・大久保工学部長から、2020 年(令和 2 年)春の常設会議は 4 月 17 日(金)に KKR 東京で開催するとのアナウンスがあった。

次に、水谷議長より会長校について、2019 年度から会長校は東北大学であり、午後の社員総会で東北大・長坂工学研究科長・工学部長が会長に選任され、午後の会議の終了時に就任の挨拶を頂く旨のアナウンスがあった。

以上をもって第 7 回八大学工学部長会議を終了することを田中議長が宣言し、事務局長から、午後 13 時 30 分より第 137 回八大学工学関連研究科長等会議が開催される旨の案内があった。

以上